

基礎教育 授業概要一覧

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的・目標				
授業の概要				
スタディスキルズ	学修基礎	講義	1年次	1単位
<p>授業の目的・目標： 大学生活に適応するあり方、4年間を通して大学で必要な最低限の学習スキル、著作権や法律などの基本的知識や態度を獲得する。</p> <p>(1) 建学の精神、本学のあゆみと特徴について理解する。 (2) 学生生活の心得、学習の技術、安全・健康管理の基本を学ぶ。 (3) コミュニケーションの技術、文献の探し方、知的財産権の基本、情報リテラシーの基本を身につける。 (4) キャリアデザインの考え方を身につける。</p>				
<p>授業の概要： 大学新入生が大学生活に適応するあり方、大学で必要な最低限の学習スキル、著作権や法律など、主として大学入学次に必要となる基本的内容を取り上げ、大学生として、芸術工学をこれから学習しはじめようとする本学学生に対して、大学教育の最初に身につけておくべき社会的な知識・スキルを解説する。</p>				
日本語表現Ⅰ	学修基礎・必修	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標： (1) 書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる。 (2) 文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける。 (3) 文章でものごとを客観的に説明できる。 (4) 立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる。 (5) 待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる。</p>				
<p>授業の概要： 基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高める。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力を身につけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。なお、この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎となるものである。</p>				
日本語表現Ⅱ	学修基礎	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標： (1) テーマについて様々な視点から考え、共有できる。 (2) レポートの構造を把握し、文章が作成できる。 (3) 資料を読み、要点を抽出することができる。 (4) 資料を適切に引用し、事実と意見を書き分けられる。 (5) 信頼性のある資料を探し、参考文献リストを作成できる。</p>				
<p>授業の概要： 大学生としてふさわしい教養と社会で活躍するために必要な日本語での文章作成の基本を学ぶための授業である。基本的な日本語の文章表現のルールを実際に応用しながら、まとまりのある論理的な文章が書けるよう、構成を意識し、読み手に伝わる文章が作成できるようになることが求められる。</p>				
文章表現法A	学修基礎	講義	2年次	2単位
<p>授業の目的・目標： (1) 自らを客観的に見つめ、経験を整理し、文章で表現することができる。 (2) 無駄を省いた簡潔な文章で表現できる。 (3) 社会に視野を広げ自身との接点を意識した客観的な文章が書ける。</p>				
<p>授業の概要： 日本語表現Ⅰ・Ⅱで学んだアカデミック・ライティングの基礎を生かしつつ、大学生としてふさわしい教養と、社会で活躍するために必要な日本語の実践的な技術を身につけるため、多様なコミュニケーションの場に対応できる力の修得を目指す。これまでに書いてきた長文のレポートとは異なり、300字、あるいは800字から1000字程度で簡潔に自己をパフォーマンスできる文章作成の演習を行う。そのため読解資料を配布するが、各自で関心に添った資料を収集し準備することも求める。グループワークも取り入れる。</p>				
文章表現法B	学修基礎	講義	2年次	2単位
<p>授業の目的・目標： (1) 文章を読み、要点を抽出しまとめることができる。 (2) テーマについて情報を収集し、発表のための構想を組み立てることができる。 (3) 聞き手を意識した手法で、口頭的に表現することができる。</p>				
<p>授業の概要： 大学生としてふさわしい教養と社会で活躍するために必要な日本語の実践的な技術の習得を目指す。日本語表現Ⅰ・Ⅱで学んだことを踏まえ、読解や口頭表現を含めた言語活動の訓練を行う。具体的な活動として、文章や映像資料から必要な情報を取り出し内容を整理する。またグループワークを通して聞き手にわかりやすく伝える活動を重ね、テーマごとに口頭発表を行う。</p>				
日本史	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標： (1) 日本の対外関係史について基礎的知識が習得できる。 (2) 現代に根ざす諸問題を歴史的に理解できる。</p>				
<p>授業の概要： 古代から現代までの日本の歴史について、国際関係を中心に概説的に講義する。たとえ海に囲まれた島国であっても、いつの時代でも外部と一切関わりなく日本は成り立たない。国際関係を基軸に講義することで日本のあゆみを知り、現代社会につながる諸問題について理解を深めていく。</p>				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的・目標				
授業の概要				
世界史	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 現代とは異なる社会や文化のありようを通じて、他者理解のための多角的な視点が身につく。</p> <p>(2) 近代世界の成り立ちと今日的な諸問題の経緯について、歴史的に説明できる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>今日の世界情勢はますます混迷を深めており、グローバル化が進むなか日本社会の先行きも容易に見通せない。このような世界を生きていくうえで、教養としての歴史は重要である。いまとは異なる過去の社会のしくみと成り立ちを知ることは、わたしたちが生きている世界の問題を理解するだけでなく、時代の変化に適応できる思考力を養うことにつながる。</p> <p>授業前半：近代以前のさまざまな時代・地域における文化や社会、それらの交流を概観する。授業後半：近代世界の成り立ちとその変遷、国際社会と日本の関わりについて講義を行い、現在わたしたちが直面する諸問題についての理解を深める。</p>				
心理学	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 心理学の基本理論、用語が理解でき、簡単に説明できる。</p> <p>(2) 認知、認識、発達、学習、言語などの主要な心理学テーマの仕組みが理解できる。</p> <p>(3) 心理学と芸術とが関係する心理学的な基本問題や基本理念について理解できる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>近年、哲学から出発した心理学は脳神経科学領域へと進展し、その科学的な分析対象は「観察可能な行動」から「脳活動」へ拡大した。これにより明らかとなった芸術や美の背景にある心の働きのより詳細かつ多様な要因について科学的に理解することで、芸術活動の人間にとっての意味を心理学的側面から考える力を修得する。</p>				
デザイン史	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 近代を中心にデザイン史への興味が深まり、その文化的価値が理解できる。</p> <p>(2) 歴史的な美術や工芸をも含めた広い意味でのデザイン、近代デザイン、そして現代デザインの研究の基本が理解できる。</p> <p>(3) 以上の認識を踏まえ、国内外のデザインや美術関係者はもちろん、諸芸術やものづくりの人々とも意見を交わせる基本的な知識や理念を身につけることをめざす。</p> <p>授業の概要：</p> <p>ベヴスナーの『近代デザインの先駆者たち：モリスからグロピウスまで』を導入部とし、授業前半でバウハウスに至る近代デザインの基礎知識を、新知見も加え、確認する。後半では、ヨーロッパからアメリカや日本にも拡大し、異なる文化や、アートとテクノロジーとの関係についても考察を進める。近代デザインや近代建築は20世紀後半に終わったという見方と、広い意味でまだ続くという見方があるが、その理解を「ポストモダニズム」「脱構築主義」等の把握で深める。最後に「ミュージアム・デザイン」をテーマに、世界各地のミュージアムを比較する。それはミュージアムとそこに展示される美術・デザイン作品のあり方を考えるため、授業終了後もデザインの歴史や現代デザインへの興味を高め、理解を深められるよう計画している。</p>				
日本美術史	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(目的)</p> <p>(1) 各時代を象徴する日本美術及び美術に関連する歴史事象を理解する。</p> <p>(2) 日本美術作品を多面的に鑑賞する能力が身につく。</p> <p>(目標)</p> <p>(1) 日本美術の多彩な表現と様式を説明できる。</p> <p>(2) 各時代の代表的な日本美術を比較・考察し、論じることができる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>各時代の重要な美術作品、時代背景、日本の伝統工芸、アジアの美術・工芸を含む関連領域の文化、社会的な出来事等に関する基本的知識を理解する。海外の美術、科学技術、美術学校や美術館などの美術をめぐる諸制度、トピックを視野に収め、美術を深く鑑賞する能力を習得する。日本の美術の流れをその社会と文化的な背景を考慮に入れて概観する。縄文・弥生時代から明治、大正、昭和、平成と続く近現代の日本美術までを視野に収める。関連する日本の様々な伝統美術、西洋及びアジアの美術・工芸、芸術文化との相互交流、海外の多彩な文化の刺激を摂取しつつ、独自の美術表現を生み出してきた日本美術の特質を概説する。</p>				
西洋美術史	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(目的)</p> <p>美術やデザインの制作・教育に携わる上で必要となる西洋美術史の基礎的知識を身につけるために、キリスト教西欧を中心とする美術の歴史を「近代化」、「世俗化」という視点から概観できるようにする。</p> <p>(目標)</p> <p>(1) 様々な時代の作品に触れ、西洋美術史の流れを把握することで、大学生としてふさわしい教養と、社会で活躍するために必要な美術の基本的知識が身につく。</p> <p>(2) 作品にはそれらが属する時代・社会・文化・思想が深く関わっていることが理解できる。</p> <p>(3) 美術の変化がわたしたちの感性や価値観の変化をも反映していることに気づく。</p> <p>授業の概要：</p> <p>主としてキリスト教西欧の美術をあつかう。そのルーツとしての古代ギリシャ・ローマの美術に始まり、ルネサンス期以降進行してゆく「近代化」・「世俗化」の流れを、自然科学の発達や宗教改革、市民革命や産業革命といった文化的・社会的変化と関連づけて概観する。写真誕生以後は絵画の変容を中心に、芸術についての様々な考え方が生まれ、現代の美術へと向かう道筋をたどる。</p>				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的・目標				
授業の概要				
美学	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(目的) 造形芸術を中心に、美と芸術について歴史的、理論的に積極的に考察を進める。</p> <p>(目標) (1) 世界の造形芸術教育の歴史と現在を理解することで造形や芸術全体への興味を高め、文化的相違や、その違いを超えた共通性をともに理解できるようになる。 (2) 世界的レベルでの美学的研究の可能性と美的創造能力をともに高めることが可能になる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>狭義のデザインは造形芸術のひとつで、広義のデザインは絵画・彫刻・建築等の造形芸術全体またはそれ以上の創造行為を意味しており、さまざまな造形概念を確認しながら講義を始める。造形芸術の基礎となったディセーニョ（デッサン）はデザインと重なる。16世紀のイタリアで始まった造形芸術教育の世界各地での展開を、解説する。ジャポニズムと構成主義、装飾芸術と脱構築主義といった、一見異質なイズム同士のある意味で意外な重要な関係を探りながら、現代の造形芸術教育までを、世界各国の諸都市についても解説する。</p>				
人文地理学	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(目的) 人文地理学がこれまで蓄積してきた方法や特有の視点を学ぶことで、身近な場所・空間に対する、成り立ちを理解できるようになる。</p> <p>(目標) (1) 人文地理学の基本的な視点・方法を理解し、多様な現象を地理学的にとらえる発想力が養われる。 (2) 地域の魅力や課題、そしてグローバル化などへの関心が高まる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>集落や都市、交通、人口、経済、政治などは、ある一定の地域のなかで複雑な相互関係のなかで成立し、さらに他の地域と時間的空間的連関をもつ。地理学の下位分野としての人文地理学は、空間を単位としてその中のさまざまな人文的要素の関係を扱う総合的な学問であり、建築や工業デザインなどとも密接につながる。日本および海外の具体的な地域の事例を挙げながら、生活空間を包括的にとらえる考え方、視点について学び、デザインへの展開の可能性にも言及する。</p>				
文化人類学	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(目的) デザインやアートの理解や創作に有用な、異文化についての知識や各種の文化理論を修得できるようになる。</p> <p>(目標) (1) 文化人類学の基本的な視座である文化相対主義を説明することができる。 (2) 機能主義、構造主義、象徴論、境界論など、各種文化理論を説明することができる。 (3) それらの理論を使い、自分の身近にある様々な文化事象を分析することができる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>世界各地の文化、特に信仰（世界宗教から各地の伝統的な民間信仰、神話や民話、呪術的儀礼など）を事例にとりながら、文化人類学の視点、および分析のための諸理論を解説する。 授業にあたっては、私自身のニューギニア調査など遠い異文化の事例と、ポップカルチャーなど学生に身近な自文化の事例を、同等に取り上げ、同じ理論で分析していくことで、それらが地続きの事象であることを示したい。</p>				
法学（日本国憲法を含む）	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(目的) (1) 私たちは一人の人間として社会で生活をしている。その中には法律に関係することは意外と多い。私たちは国家や社会の構成員として一定のルールを定めて生活している。この授業を学ぶ事で、日常生活でおくる社会問題を社会現象として捉えたり、またその法律・憲法問題を法・憲法現象として捉えたりできるようになる。 (2) 具体的な社会現象を法学的・憲法学的に解決する方法を修得できるようになる。</p> <p>(目標) 一人ひとりの個人が持っている「平和な社会で自由で豊かで幸せに暮らしたい」という要望を憲法学的に実現する方法を論じることができるようになる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>憲法学の学習を通じて、日常生活と法の関わりに対する憲法の基本原理について理解する。さらに具体的な法現象・憲法現象を挙げて法学的・憲法学的に解決する方法を学ぶ。併せて人権問題、統治機構についての基本的理解と問題解決方法を学ぶ。</p>				
知的財産権入門	人文・社会	講義	2年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 「知的財産」をどのように保護し、そして「知的財産権」をどのように活用すれば、企業の市場競争力や事業継続性に寄与するのかを理解できる。 (2) 社会活動を営む中で必ず直面する「知的財産権」諸問題に関する感度を高め、「気付く力」および「対処する力（専門家等に相談）」を修得できる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>技術、ブランド、デザイン、コンテンツなどの「知的財産」を保護するための法制度（知的財産法）について、その意義および「実社会」での機能（役割）を説明しつつ、「知的財産権」の活用がなぜ必要なのかを講義する。 特に、アートとデザインの世界に身を置く者が創作活動を行う上で密接に関係する意匠権（デザイン保護）および著作権（コンテンツ保護）の取得要件や活用方法を講義する。</p>				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的・目標				
授業の概要				
現代社会論	人文・社会	講義	2年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 現代社会の成り立ちについて考えるための基礎が学べる。</p> <p>(2) 実例を踏まえながら社会科学の考え方や基礎概念を身につけることで、自分の日常生活と社会との接点を自分なりに考え、現代社会についての理解が深まる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>この授業の重点は単に知識を積み重ねるより、むしろ社会科学の考え方を身につけることにある。「近代」、「国家」、「資本主義」と「イデオロギー」という四つの概念に焦点を合わせ、それらの概念をツールにして、毎日のニュース、恋愛や人間関係、メディア表現、文化産業、広告分析、キャラクターと物語、SNSなど、身近な現実について考察する。</p>				
マーケティング論	人文・社会	講義	2年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(目的)</p> <p>マーケティング論に関する基本的な概念、背景、定義について自分の言葉で説明ができる。</p> <p>(目標)</p> <p>(1) マーケティングに関する分析において、適切な理論を取捨選択し、適用することができる。</p> <p>(2) その分析を踏まえて、有効なマーケティング戦略を策定し、論じることができる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>マーケティングとは、市場の創造を行い、価値を生み続けることで競争優位を構築するための重要な企業活動である。本科目は2部構成から成り、様々なマーケティングの考え方を学ぶ。</p> <p>そしてマーケティングの4P(Product, Price, Place, Promotion)に基づいたマーケティング戦略に必要な知識の土台を作ることを狙いとする。</p> <p>第1部(1~5回)は、マーケティング論の概要や分析フレームワークの基礎を扱う。第2部(6~15回)では、マーケティングの4Pに基づいた具体的なマーケティング戦略の基礎概略を扱う。</p>				
教育心理学	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 子どもの学びや発達に関する基本的な心理学の理論を学び、それらを用いて学校現場における子どもの学習や生活、行動を心理学的観点から理解できるようにする。</p> <p>(2) 教師としての資質を高め、教育・指導の在り方を心理学的な知見を取り入れて自分なりに考えていけるようになる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>基本的な心理学的理論・発達理論・教授学習過程に関わる理論を幅広く紹介し、学校現場における児童・生徒に対する理解、指導、かわり、クラス運営にどのように活用できるか検討する。また、学校現場で生じる様々な心理的問題を取り上げ、その対処法について共に考えていく。</p>				
生涯学習概論	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 生涯学習の意義とその内容・方法を理解し、それらの基礎になった日本及び諸外国の生涯学習の発展と特質について説明できる。</p> <p>(2) 生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育との関係、及び高齢者が中心の日本の生涯学習の現状との関係を理解し、基礎的な説明ができる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>博物館・図書館は、社会教育施設の一つであり、その運営や活動の基本には生涯学習の視点が欠かせない。生涯学習の考え方とその歴史、家庭教育や学校教育、博物館以外で行われる社会教育の特質や基礎について紹介するとともに、博物館・図書館が生涯学習の体系の中で果たす役割について論じる。なお、グループワークにより授業を進めるので、各自、積極的にグループでの討議、作業に参加すること。</p> <p>また、社会教育施設のフィールドワークを各自行った結果をまとめ、順番にプレゼンテーションを行う。</p>				
博物館展示論	人文・社会	講義	3年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 博物館における展示に関する理論、展示の理念と歴史、博物館展示の諸形態、展示方策や方法に関する基本的知識及び技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的な能力を身につける。</p> <p>(2) 博物館資料の公開と展示は、博物館による自己評価や外部評価の対象となり、展示解説やカタログ、各種の教育プログラム等と一体的に構成されていることが理解できるようにする。</p> <p>授業の概要：</p> <p>博物館における展示の意義と理念、人々と資料をつなぐコミュニケーション・プラットフォームとして、あるいは博物館の調査研究成果の発表の場として価値づけられる展示活動の理論、展示の企画方法とその評価、展示の歴史と課題について論じる。また博物館の展示の現場の形態と特性を、常設展示、企画展示などの場面ごとに取り上げ、展示と一体となった解説、ワークショップ、アウトリーチ等の教育プログラム、移動美術館等の館外展示活動、作品の相互貸し出しなどの博物館の広域的な連携活動の意義についても論じる。</p>				
東アジア文化入門	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>他国の文化を知ることとは、グローバル化と多様化が進むこれからの社会に必要な国際的コミュニケーション能力を身につけるだけでなく、自国の文化に対する理解を深めることにもつながる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>日本と地理的・歴史的に近い関係にある韓国を中心に、日中韓の東アジア地域の伝統から現代に至るまでの文化と芸術、生活様式について比較・理解する。さらに、同じ東文化圏である北朝鮮の芸術とデザインについても、社会と関連づけて考察するなど、東アジア地域の社会と文化を理解するための基礎知識を身につける。</p>				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的・目標				
授業の概要				
文学・言語学	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標： (1) 詩や物語など「文学」に現れる言語表現について、いくつかの言語学的な特徴を理解することができる。 (2) 普段何気なく用いている「ことば」を客観的に捉え、学問的に追究しようとする言語学についての入門的な知識を得ることができる。</p>				
<p>授業の概要： 日本語や日本文学を中心に、「ことば」によって表現される言語芸術である「文学」を、「言語学」的な視点から読み解く。また、具体的な作品を取り上げながら、創り手（詩人や作家）が、「ことば」のどのような働きや特徴から創作のインスピレーションを得ているかを考える。</p>				
経済・政治	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標： (1) 講義の流れに沿って、絵画・文学・音楽・映画等、様々なジャンルの偉大な芸術作品の背景に存する政治思想や前衛性が解析できるようになる。 (2) 個々の学生が、作品創作において自己の思想が明確に表現できるようになる。</p>				
<p>授業の概要： 芸術家・クリエイターの「創造者の見地」から、芸術的創造行為の論理的基盤を支える様々な政治・経済思想を、「ピュシス（自然）とノモス（法）」「イデオロギーと自由」「規範と革命」「市場価値と創造的労働」等をキーワードにして、様々な角度から解説する。また、民主主義・資本主義に則る西側諸国の現実的問題を、「一個人の政治力」「完全市場の欺瞞」等の切り口から分析し、全体主義・社会主義におもねる東側諸国の諸問題を「支配と従属の欲望」「労働価値説の欺瞞」等の観点から明らかにする。さらに、自由主義圏を支配するネオ・リベラリズムを、ポスト・モダニズムに立脚して批判的に克服した後に、全世界的視野に立って、歴史を超越する「政治活動として」の「美的革命の可能性」を探索する。</p>				
教育学	人文・社会	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標： (1) 教育の基礎的理論（場所的、時間的な縦横軸上の教育現象や教育問題や問題の構造）を理解でき、それらを理論的に説明できる。 (2) 現代社会における様々な教育現象（教師、子ども、学校、家庭、社会）の基本的問題についてそれらの構造を理解し、言説により説明できる。</p>				
<p>授業の概要： 社会には教育現象が溢れている。この授業では、教育学とはどのような学問であるかを紹介する。ひろく人間形成作用にまで及ぶ無意図的作用から、意図的、文化的、制度的教育についても触れる。</p>				
数学入門A	自然・情報	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標： (目的) 数学を幅広く知り、数学の基礎的な素養、数学的思考法が修得できる。 (目標) (優先順位は、高い順に (1) > … > (4) である) (1) 数学的思考法を真に有機的に理解・修得し、簡単な場合に应用出来るようになる。 (2) 数学的思考法を通して、物事を柔軟に思考出来る礎を培う。 (3) 数学的思考法を実際の多くの場面で应用出来る事に興味を持ち、視野が広まる。 (4) 真面目に出席・受講し、講義時間の課題に積極的態度で取り組む。</p>				
<p>授業の概要： 数学、ひいては他の分野の基礎を形成する為、数学の基礎を講義する。ここでの数学の基礎とは、単なる数学の基礎知識の事ではなく、1. 物事の数学的な見方、2. 数学的思考法、3. 数学活用法と応用法、と定義する。 本講義は、数学知識の修得に留まらず、上の1~3に重点を置き、これらの修得を第一目的とする本質的かつ根源的な「数学入門」講義である。 目的遂行を効果的になす為、整数論、代数、幾何、和算(江戸時代の日本独自の数学)等の広範な数学分野に関連する多種多様な「数理パズル」を題材にして講義する。</p>				
数学入門B	自然・情報	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標： (目的) (1) 初等整数論を修得できる。 (2) 様々な数学分野に興味を持ち、かつ、現代人の必須一般常識である数学に興味を持つ。 (目標) (優先順位は、高い順に (1) > … > (4) である) (1) 初等整数論を真に有機的に理解・修得し、簡単な場合に应用出来るようになる。 (2) 初等整数論を媒介にして、物事を柔軟に思考する事が出来、問題を解決出来る礎を培う。 (3) 初等整数論が実際の多くの場面で適用出来る事に興味を持ち、様々な数学分野への視野が広まる。 (4) 真面目に出席・受講し、講義時間の課題に積極的態度で取り組む。</p>				
<p>授業の概要： 現代、諸分野（芸術分野もその例外ではない）において、初等整数論は必須基礎知識であるという観点に立脚し、初等整数論、及びその有益性を講義する。 講義方針は、初等整数論の有益性（日常生活では勿論、芸術分野においてさえも実際に役立つ事）を常に念頭に置き、初等整数論の理解の容易化と定着化を図る事を旨とする。 従って、数多くの応用例の提示やいくつかの数理パズルの有効利用等を通して、講義の理解度を高めると共に十分な演習時間の確保に努める。 約数、倍数、素数の復習に始まり、ユークリッドの互除法、1次不定方程式、素因数分解の一意性、1次合同式、オイラーの関数、RSA暗号の概要までの初等整数論について学ぶ。</p>				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的・目標				
授業の概要				
物理学入門	自然・情報	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(目的)</p> <p>(1) 万有引力の法則に関連するいくつかのトピックスを学び、科学が教える自然の背後に潜む根本原理を理解することで、科学の基礎学力が身につく。</p> <p>(2) 自然科学的なものの考え方を学習することで、論理的な思考能力が身につく。</p> <p>(目標)</p> <p>(1) 万有引力の法則がどのようにして発見され、それがどういった法則で、またそれによってどのような自然現象が説明できるかを論じることができる。</p> <p>(2) 様々な事柄を論理的に考えることができるようになる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>一見複雑で多様に見える様々な自然現象を、物理学的観点から明快に理解し、更にその講義を通して自然科学的な方法論・哲学を学ぶことを目的とする。この講義では特に万有引力とニュートン力学に焦点を当て、天体の運動に関する理解を通して知りえた単純で深遠な原理を紹介する。</p>				
科学と技術	自然・情報	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(目的)</p> <p>(1) 自然科学がどのように発展してきたのかを学ぶことによって、科学とはどういった学問かをより深く理解することができるようになる。</p> <p>(2) その学習を通して物事を論理的に考察する技術が身につく。</p> <p>(目標)</p> <p>(1) 科学技術が発展する様子を、世界地図を用いて視覚的に説明できる。併せて世界史の大きな流れを捉えることができる。</p> <p>(2) 人類がどのような経緯で元素といった概念にたどり着いたのかを論じることができる。</p> <p>(3) 様々な事柄を論理的に考えることができるようになる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>科学技術の発達と地理的世界観の発展には密接な関係があることに着目し、講義の前半で世界地図の移り変わりを概観し、科学の発展や中世における停滞を視覚的に把握する。後半部分ではそれらの世界観を踏まえて、特に物質観に焦点を当てて科学がどのようにして発展してきたのかを学習する。</p>				
かたちの科学	自然・情報	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(目的)</p> <p>(1) 自然を形成する様々な形の背後にいくつかの普遍的な法則があることが認識できる。</p> <p>(2) そのような形の形成過程や構造を深く理解することで、より高度なデザイン表現ができるようになる。</p> <p>(目標)</p> <p>(1) デザイン表現において黄金比の概念を応用できるようになる。</p> <p>(2) ジェネレーティブアートの基本的な考え方を説明できるようになる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>一見複雑で多様に見える様々な自然現象を、物理学的観点から明快に理解し、更にその講義を通して自然科学的な方法論・哲学を学ぶことを目的とする。この講義では特に、自然界の中にみられる不思議な形をいくつか取り上げ、それらの形成メカニズムを自然科学的な観点から捉え、明確に理解することをめざす。</p>				
数理とかたち	自然・情報	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) プログラミングの基礎的な文法を理解し、思い浮かべたアイデアを実装できる能力を養う。</p> <p>(2) デジタル画像に関わる分野を志向する学生が、将来的に各自の専門性を確立するための直接的な足掛かりが構築できる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>プログラミングによるイメージ設計は将来的にプロシージャルなCG表現やジェネレーティブアートなどに取り組み際の基盤技術となる。そこで本科目では数と図形の関係を理解し、造形を数字で発想できるようなデジタルイメージの設計法についてJavaScriptを用いて主に演習形式で学習する。</p>				
健康科学	自然・情報	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(目的)</p> <p>新しい生活様式における健康について考え、生涯にわたり健康管理ができるようになる。</p> <p>(目標)</p> <p>(1) 生活環境の変化と健康・身体についての関連性を指摘できる。</p> <p>(2) 定期的な運動が持つ効果の知識を深め、健康の保持増進に役立てることができる。</p> <p>(3) 健康寿命の延伸に必要な知識を理解し、健康の自己管理に応用できる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>生活環境が変化する現代において、運動不足や加齢に伴う生活機能低下を防ぐ対策が重要課題となり、健康寿命を延伸するために、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と身体活動・運動不足の関連性、身体運動のメカニズム、および健康度の一つの尺度となる体力・日常動作について理解を深めると同時に、運動が生活習慣病予防・介護予防に役立つ科学的根拠について学ぶ。さらに、生涯にわたる健康管理の進め方と実際についても理解を深める。</p>				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的・目標				
授業の概要				
スポーツ実技A (体育)	自然・情報	実習	1年次	1単位
授業の目的・目標： (1) 積極的にスポーツに取り組み、自身のからだを理解することができる。 (2) 実践するスポーツ、レクリエーションスポーツの基本が習得できる。 (3) 学生同士が協力しあい、主体的にスポーツを展開できる				
授業の概要： 球技を中心としたレクリエーションスポーツ（バレーボール、バスケットボール、サッカー、バドミントン、卓球、トレーニング等）を通じ、自身の体力維持、向上を目指す。また心身の健全な発育、発達に対する気づきを高め、生涯における運動実践の重要性や自身の体力を把握する。さらにチーム単位で行う練習やルールの取り決めなどを経て、他者とのつながりを築くためのコミュニケーション能力、協調性といった社会的教養も学ぶ。				
スポーツ実技B (ダンス)	自然・情報	実習	1年次	1単位
授業の目的・目標： (1) 音楽を聴き、リズムによって心と体をコントロールし、数種類のダンスを踊れるようになる。 (2) 踊る事の楽しさ、難しさ、開放感、達成感等を理解し、物事に取り組む姿勢、自己の感覚と客観的実体との差異やそれらの修正作業を身につける。				
授業の概要： ビートニック音楽に合わせて踊る事で得た躍動感・高揚感・リズム感は、他のスポーツ・音楽・リズム・メロディ等にアプローチする時に大きな影響を与える。それは、アフリカ民族独特の高度なリズムパターンと、重心移動やオン・オフバランスを伴った動きの連係作業を経験する事により、東洋人に馴染みの薄い新たな運動パターンや情緒感を体得できるからである。授業においては、基本動作やリズム取りから始めて、各ジャンルの特徴ある振り付けを踊る事でそれを体験してもらう。また、生理学、解剖学等を利用した効率のよい、科学的なアプローチをするストレッチにも触れてもらう。				
情報とネットワーク	自然・情報	講義	2年次	2単位
授業の目的・目標： (目的) (1) 現代社会において、ネットワークや情報の活用は不可欠であるが、デザインやアートも含めて情報を自覚的に発信するための方法や考え方について理解することで、そのような状況を批判的に捉え直し、行動できるようになる。 (2) 脳によって生み出される感情について学ぶことで、ネットワークの本質が理解できる。 (目標) (1) アナログな人間とデジタルな情報との関係を論じることができる。 (2) デジタル処理の基本原則を理解できる。 (3) 有効なネットワーク利用について論じることができる。 (4) ヒトの脳が、一種のネットワークであり、特に感情がどのようにして生まれるのかを論じることができる。 (5) 感情には様々な種類があり、それらを分類できると共にそれぞれ脳の別の箇所構成されていることを示すことができる。 (6) ネットワークとは何かを本質的な意味で述べることができる。				
授業の概要： 日常生活においてネットワークを通じて相互に関連しあった情報が、われわれの行動や価値観に大きな影響を与えるようになって久しい。こうした状況において、ネットワークと情報の可能性、問題点についての十分な理解が、これからの時代を生き抜くうえで不可欠なものとなっている。従来の情報理論を踏まえ、情報リテラシーの観点から、さまざまな事例をもとに学習する。一方で、ネットワークの特殊な例として脳を考え、特に感情がどのようにして生まれるのかをネットワークの観点から論じる。				
博物館情報・メディア論	自然・情報	講義	3年次	2単位
授業の目的・目標： (1) 博物館における情報の運用の基本的技術や電子メディアの仕組み、知的財産権の知識を幅広く理解し、情報を扱う基本的態度を自覚することが可能となる。 (2) 学芸員としてのメディア・リテラシーの基礎知識が身につく。				
授業の概要： 博物館における情報・メディアの意義を理解し、博物館情報の収集・蓄積・活用の方策、博物館情報の取り扱い及び評価基準、情報メディアと博物館の諸活動との関係に関する基礎的な知識と能力を身につけて、メディアとしての博物館の使命と存在意義を社会の中で果たしていくことに必要な基盤となる知識と視座を獲得することをねらいとする。 博物館における情報・メディアの意義と理念、博物館に関わる多彩な情報やメディアに関する基本理論を論じる。博物館活動や博物館資料の情報化、インターネットやアーカイブなどを活用した博物館情報の発信と提供、交流の場の創成に関わる基礎的な知識、新たなメディア経験等と博物館活動との関係、博物館に関する知的財産権の保護と処理について、具体例をあげながらこれらの博物館の情報機能の役割について考える。				
基礎英語 I	外国語・必修	講義	1年次	2単位
授業の目的・目標： (1) 英語で情報を input するための基礎力を鍛え、失敗を恐れず output する姿勢を身につける。 (2) 海外事情や文化についての理解を深める。				
授業の概要： 英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を確認し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。まず教材の英文を声に出して読む／学生同士で会話練習することで英語のリズムを体に覚え込ませる。読み物の部分では、基礎英文法を確認しつつ文意を的確に把握する練習をすると共に、本文聞き取りや音読を反復練習する。教材についての感想・意見を英語で話したり書いたりする練習も行っていく。				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的・目標				
授業の概要				
基礎英語Ⅱ	外国語	講義	1年次	2単位
授業の目的・目標： (1) 英語で情報を input するための基礎力を鍛え、失敗を恐れず output する姿勢を身につける。 (2) 海外事情や文化についても理解を深める。				
授業の概要： 基礎英語Ⅰを履修した学生を対象としたクラスである。英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を確認し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。まず教材の英文を声に出して読む／学生同士で会話練習することで英語のリズムを体に覚え込ませる。読み物の部分では、基礎英文法を確認しつつ文意を的確に把握する練習をすると共に、本文聞き取りや音読を反復練習する。教材についての感想・意見を英語で話したり書いたりする練習も行っていく。				
英語コミュニケーションA	外国語	講義	2年次	2単位
授業の目的・目標： (1) 英語の慣用句・会話独特の言い回し等を含めた語彙力・表現力を身につける。 (2) 学んだ表現を意識せずに使えるようになることを通じて、英語による発話・応答能力を高める。 (3) 異文化への関心・理解を高め、積極的に接することができるようになる。				
授業の概要： 日常生活で頻出する場面・事例をもとにしたタスク・ロールプレイ等を繰り返し行うことで、必要な表現が使えるようになると共に、積極的に異文化に接することができるようになる。				
英語コミュニケーションB	外国語	講義	2年次	2単位
授業の目的・目標： (1) 英語の慣用句・会話独特の言い回し等を含めた語彙力・表現力を身につける。 (2) 学んだ表現を意識せずに使えるようになることを通じて、英語によるコミュニケーション運用能力を高める。 (3) 異文化への関心・理解を高め、積極的に接することができるようになる。				
授業の概要： 自身の興味等に基づいたトピックについて行うプレゼンテーション等を繰り返し行うことで、必要な表現が使えるようになると共に、積極的に異文化に接することができるようになる。				
表現のための英語A	外国語	講義	2年次	2単位
授業の目的・目標： (1) 英語の慣用表現等の独特な言い回し等を含めた語彙力・表現力を身につける。 (2) 学んだ語彙・表現を使って、自らの作品を紹介できるようになる。				
授業の概要： 映画・ドラマ等の映像・文学・音楽等、英語により発信されているさまざまな場면을題材に、アート&デザインの世界でどのように英語表現されているかを学ぶことで、日常生活で頻出する場面における応用的な表現力を身につける。				
表現のための英語B	外国語	講義	2年次	2単位
授業の目的・目標： (1) 英語の慣用表現等の独特な言い回し等を含めた語彙力・表現力を身につける。 (2) 学んだ語彙・表現を使って、自らの作品を紹介できるようになる。				
授業の概要： アーティストやクリエイティブ系のメディア等が、さまざまな媒体を通じて英語で発信している素材を題材に、アート&デザインの世界でどのように英語表現されているかを学ぶことで、日常生活で頻出する場面における応用的な表現力を身につける。				
現代英語	外国語	講義	2年次	2単位
授業の目的・目標： (1) 時事的な話題に関連する語彙や表現・文法事項を学習し、英語によるコミュニケーション力の向上を図る。 (2) 常に国内外のニュースに目を配る習慣を身につけ、問題意識を持って自らの創作活動に取り入れていくことができるようになる。				
授業の概要： アート&デザインに関する内容を含む時事的な話題を採り上げた記事を読む／映像を視聴すること等を通じて、作品制作や表現活動について英語で見聞きし語るための「引き出し」を増やすことを目指す。				
フランス語Ⅰ	外国語	講義	2年次	2単位
授業の目的・目標： (1) 基本的なコミュニケーションに必要な、実用的なフランス語運用能力を習得する。 (2) フランスおよびフランス語圏の文化や価値観を自身の専門分野と関連付けて多角的に学ぶことにより、異文化への適応力や教養を身につける。				
授業の概要： フランス語を初めて学習する学生を対象としたクラスである。フランス語の音声・文字に親しみ、積極的に語彙を増やし、フランス語の文の基本構造を理解することで、自分で文を組み立てられるようにする。聞き取り練習で相手の話を聞きとる能力を身につけると共に、間違いを恐れず積極的に話すことができるよう練習する。				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的・目標				
授業の概要				
フランス語Ⅱ	外国語	講義	2年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 基本的なコミュニケーションに必要な、実用的なフランス語運用能力を習得する。</p> <p>(2) フランスおよびフランス語圏の文化や価値観を自身の専門分野と関連付けて多角的に学ぶことにより、異文化への適応力や教養を身につける。</p>				
<p>授業の概要：</p> <p>フランス語Ⅰを履修した学生を対象としたクラスである。フランス語の音声・文字に親しみ、積極的に語彙を増やし、フランス語の文の基本構造を理解することで、自分で文を組み立てられるようにする。聞き取り練習で相手の話を聞きとる能力を身につけると共に、間違いを恐れず積極的に話すことができるよう発展的な練習をする。</p>				
ドイツ語Ⅰ	外国語	講義	2年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) ドイツ語の語感を養い、同時に挨拶等の簡単な表現を身につける。</p> <p>(2) 簡単なドイツ語文を作成できるようになる。</p> <p>(3) 自己紹介をドイツ語でできるようになる。</p>				
<p>授業の概要：</p> <p>ドイツ語を初めて学習する学生を対象としたクラスである。ドイツ語におけるアルファベットの発音と読み方を学び、文章を読んでいきながら動詞の人称変化や冠詞の格変化といった基礎的な文法内容を確認していく。これに加えてドイツ語圏の日常や文化にも触れていく。</p>				
ドイツ語Ⅱ	外国語	講義	2年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) ドイツ語の語感をさらに磨く。</p> <p>(2) より多くの日常生活に必要な表現を身につける。</p> <p>(3) 会話上のより多様な初歩的表現を用いて身の回りの出来事を表現することができるようになる。</p>				
<p>授業の概要：</p> <p>ドイツ語Ⅰを履修した学生を対象としたクラスである。前置詞や助動詞といった文法を確認し、助動詞等を用いる際の文の構造を知る。これに加えてドイツ語圏の日常や文化にも触れていく。</p>				
中国語Ⅰ	外国語	講義	2年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 中国語の発音の基礎となるピンインを学び、読みや発音ができる。</p> <p>(2) 学習した基礎的な文法事項を用いて簡単な短文を作ったり、簡単な挨拶ができる。</p> <p>(3) 中国語圏の文化に親しみ、異文化適応力や教養を身につける。</p>				
<p>授業の概要：</p> <p>中国語を初めて学習する学生を対象としたクラスである。中国語の発音の基礎となるピンインの発音練習から始める。ピンインとは中国語の読みを表すもので日本語の振り仮名に相当するものである。中国語を学習する上で非常に重要であり、ピンインをマスターすることで、中国語を読んだり、正確で美しい発音ができるようになる。この授業では、ピンインをしっかり学んだうえで、段階的に文法事項の学習を進める。基礎的な文法事項や会話表現を学び、簡単な文や挨拶ができるようになることを目指す。また、中国語の学習を通じて、中国圏の社会や文化への理解を深め、楽しみながら異文化適応力や教養を身につけたい。</p>				
中国語Ⅱ	外国語	講義	2年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 中国語の発音の基礎となるピンインをマスターし、読みや発音ができる。</p> <p>(2) 学習した基礎的な文法事項を用いて、簡単な自己紹介ができる。</p> <p>(3) 中国語圏の文化に親しみ、異文化適応力や教養を身につける。</p>				
<p>授業の概要：</p> <p>「中国語Ⅰ」で学んだピンインを復習し、正確に読める練習を重ねる。さらに新しい文法や表現を学び、学んだ文法・表現を用いて簡単な文を読み書きできるようになることを目指す。授業の終わりには簡単な自己紹介を中国語でできることが目標である。中国語の学習を通じて、中国圏の社会や文化への理解を深め、楽しみながら異文化適応力や教養を身につけたい。</p>				
韓国語Ⅰ	外国語	講義	2年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) ハングル文字の仕組みを理解し、読み・書きができるようになる。</p> <p>(2) 基本的な文法事項や会話表現を学び、簡単な短文を書いたり、簡単な挨拶および日常会話ができるようになる。</p> <p>(3) 韓国の文化に親しみ、異文化適応力や教養を身につける。</p>				
<p>授業の概要：</p> <p>韓国語（ハングル）の文字であるハングル文字の仕組みを理解しながら、単語と文の読み・書きや聞き取りの練習をしながら学習する。さらに基本的な文法事項を学びながら、挨拶や自己紹介など基礎的な会話表現を学習し、簡単な作文と日常会話ができるようになることを目指す。また、韓国語の学習を通してさまざまな韓国の社会や生活文化などへの理解を深め、楽しみながら異文化適応力や教養を身につける。</p>				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的・目標				
授業の概要				
韓国語Ⅱ	外国語	講義	2年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 韓国語のさまざまな文法事項・表現を学ぶ。 (2) 学習した文法・表現を用いて、簡単な作文や日常会話ができるようになる。 (3) 韓国の文化に親しみ、異文化適応力や教養を身につける。</p> <p>授業の概要：</p> <p>「韓国語Ⅰ」で学んだ基本的な文法事項の復習と応用に加え、新しい文法や表現を学び、さらなる表現力を身につける。相手や場面による表現の使い分けなどにも関心を向け、理解できるようになることを学習目標とする。また、韓国語の学習を通してさまざまな韓国の社会や生活文化などへの理解を深め、楽しみながら異文化適応力や教養を身につける。</p>				
日本語初級Ⅰ	外国語	講義	1年次	1単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 自分の背景や身の回りの状況、直接的必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。 (2) 買い物や大学生活など直接的関係がある領域でよく使われる表現が理解できる。 (3) 基本的なアカデミックな日本語表現について理解できる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>文法・語彙・漢字を学び、日本での日常生活および大学生活がスムーズに行えるようになるための基礎日本語力を養う。また、日々の生活において生じる出来事に対処するための聞き取り能力や語彙力・読解力を鍛える。さらに、自分自身について話す、身の回りの出来事について説明する、自分の考えや意見を述べるなどができるようになることを目指す。 授業では、日本語のN1～N2レベルの文法・語彙・読解・希望に応じて漢字の練習を行う。学生の希望によって、日本語能力試験等の対策も実施する。</p>				
日本語初級Ⅱ	外国語	講義	1年次	1単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 日常生活や大学生活で出会う身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解し、たいいての事態に対処することができる。 (2) 身近で個人的にも関心のある話題や経験、出来事、夢、希望について、その理由とともに意見を述べたり説明したりすることができる。 (3) 与えられたテーマについて自ら調べ、発表をしたり、クラスメートの発表を聞いて質問したりすることができる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>日本で日常生活を送るためのコミュニケーション能力と、大学教育を受けるために必要な日本語能力を養う。「日本語初級Ⅰ」で学んだ学習項目を踏まえて、さらに新しい文法・語彙・漢字を学び、実際の場面で正しい日本語が使えるようになることを目指す。授業ではN1レベルの語彙・文法が自由に使えるような練習、読解練習、日本語能力試験等の対策も実施する。</p>				
日本語中級Ⅰ	外国語	講義	1年次	1単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 日本社会に関する文章や自分の専門分野の議論など、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。 (2) 広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストをつくることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自分の意見や感想をまとめることができる。 (3) お互いに緊張しないで日本語母語話者と自然なやり取りができる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>日本での生活、大学生活での勉強、将来の仕事に実際に役立つより高いレベルの日本語能力の習得を目指す。アカデミック・ジャパニーズでは、日本語で書かれた文章を理解し、それに対して自分がどのように考えるのかを日本語で伝える力が求められる。そのため、この授業では、新聞・雑誌等、日本社会に関する文章を読み、意味を理解し、新しい文法・語彙等を学んだ上で、内容に対しての自分の意見や感想をまとめる力をつける。 学生の希望によって、日本語能力試験等の対策も実施する。</p>				
日本語中級Ⅱ	外国語	講義	1年次	1単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) いろいろな種類のテキストの基本的内容を理解することができ、それらを説明することができる。 (2) 話しことばや書きことばから得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成し、自らの視点を示すことができる。 (3) ビジネス場面で使われる基本的な日本語表現を理解し、使うことができる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>日本語中級Ⅰに続き、日本での生活、大学生活での勉強、将来の仕事に実際に役立つより高いレベルの日本語能力の習得を目指す。授業では、日本語の生教材の読解練習、内容について自分の意見をまとめる練習に加え、新聞・雑誌等、日本社会に関する文章を読み、内容に対しての自分の意見や感想を述べるなどの学習を行う。また、ビジネス日本語も並行して学び、場面・立場による言葉づかいの違いを理解した上で、ビジネス場面で使われる日本語の基本を学ぶ。 学生の希望によって、日本語能力試験等の対策も実施する。</p>				
キャリアデザインA	キャリア	講義	1年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 大学生活の4年間の見通しを踏まえ、自らの希望や能力を自己分析し進路やキャリアイメージの確立を図る。 (2) 職業種別毎の特徴や各業界の現状と職業的ニーズやいくつかの職業別に必要とされる能力・技能・態度などを理解する。 (3) 自らが志向するキャリアや進路に基づいた自己PR方法の確立ができる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>大学4年間において職業意識や職業選択に対する考え方を早期に身につけることができるよう、現代社会の職業事情や社会情勢、そして学生のキャリアへ意識を覚醒させるための諸テーマや諸問題を取り上げる。具体的には、キャリアデザインとは何か、人生観・職業観、自己分析、自己PRの方法論、就職・創作・進学に共通する力等を展開する。</p>				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的・目標				
授業の概要				
キャリアデザインB	キャリア	講義	2年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 企業、自営業種の特徴や仕事のニーズを理解する。 (2) 働くことの意義、業種・業界の特徴を知る。 (3) 主として企業組織や企業集団における働き方のあり方の基本について理解できる。 (4) 仕事をしていくうえでの必要なマナー、伝える力を身につける。</p> <p>授業の概要：</p> <p>社会や企業、様々な仕事を見る力を解説するとともに、自分の特性をどのようにいかすことができるのかということ、具体的にイメージさせる。さらに、表現する力を身に付けさせ、自ら行動する道筋を作ることができるよう、様々な問いかけ、課題を課す。卒業生が語る仕事と社会、仕事を社会に役立てる意識などを展開する。</p>				
キャリアデザインC	キャリア	講義	3年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 就職試験に向けて、自ら実践できる力をつける。 (2) ポートフォリオの準備、エントリーに至るまでの準備、エントリーの仕方を理解する。 (3) 募集先のニーズを正しく分析することができ、自己分析に基づいたエントリー資料の作成ができる。 (4) 書類選考の仕組み、筆記試験、個人面談や集団面談への基本的な内容、最終面談で求められる能力や態度についてそれぞれ理解できる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>就職活動の流れを学習し、応募書類や筆記試験、面接試験について解説する。この授業の担当者は、人事部での実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からキャリアプランや就職活動に対しての解説、指導する。</p>				
ビジネス数学 (SPI対策)	キャリア	講義	2年次	2単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 将来の進路を考える際のキャリア選択で求められる選考試験の基本的な内容について理解する。 (2) 数多く存在する就職試験のうち、主として数理解に基づく試験の構造と基本的な内容を理解する。</p> <p>授業の概要：</p> <p>多くの企業が採用試験として取り入れているSPIの「非言語分野(数学)」を集中的に取り上げ、問題演習なども取り入れ解説していく。非言語分野は高等学校までに学んだ算数や数学の考え方が基本となる。この講義では対策(攻略法の解説)と実践(テスト)を繰り返して行う事で、SPI他どのような形式の問題にも対応できる力を養成する。</p>				
ビジネスコンピュータ	キャリア	実習	1年次	1単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) Microsoft office(Word・Excel他)の基本操作の習得。 (2) (1)で習得した知識・技術を活用して、レポートやビジネス文書、表計算書類など、基本的な書類作成ができる。 (3) いくつかの実際の場面、具体的場面を想定した文章作成、表計算表の作成の演習課題を行い、それらの課題を基本的に達成することができる。</p> <p>学生・社会人として必ず必要となるMicrosoft office(Word・Excel他)の基礎的知識を解説する。具体的な事例を用いて表計算や文書作成などについて理解できるよう、企業などで求められる基本的な資料作成ができる技術を解説する。</p>				
インターンシップA	キャリア	実習	1年次	1単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 業界の現状や仕組みの基本を理解する。 (2) 5日間以上かつ30時間以上にわたるインターンシップに参加し、特定の業種や個人事業主の現場の運営や活動に積極的に取り組み、運営や活動で求められる基本的な内容を理解及び実践できる。 (3) インターンシップにおいて、これまで大学で学んだ知識、技術、考え方などをどこまで活用できたか自ら検証を重ね、受け入れ先の指導・指示について理解と考察を深めることができる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>企業や産業団体、個人経営者など多彩な業界において公募のあったインターンシップ企画に対し、本学学生が、5日間以上かつ30時間以上にわたってインターンシップ生として参加し、業界内の現状や仕組み、専門的知識および技術などを学修するものである。</p>				
インターンシップB	キャリア	実習	1年次	1単位
<p>授業の目的・目標：</p> <p>(1) 業界の現状や仕組みの基本を理解する。 (2) 5日間以上かつ30時間以上にわたるインターンシップに参加し、特定の業種や個人事業主の現場の運営や活動に積極的に取り組み、運営や活動で求められる基本的な内容を理解及び実践できる。 (3) のインターンシップにおいて、これまで大学で学んだ知識、技術、考え方などをどこまで活用できたか自ら検証を重ね、受け入れ先の指導・指示について理解と考察を深めることができる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>企業や産業団体、個人経営者など多彩な業界において公募のあったインターンシップ企画に対し、本学学生が、5日間以上かつ30時間以上にわたってインターンシップ生として参加し、業界内の現状や仕組み、専門的知識および技術などを学修するものである。</p>				